

1

62x

刑法論綱

林董譯

八

1
622

刑法論綱卷之八目次

第十一 衆多ノ人ニ與フルニ罪犯ヲ豫防ス

ルヲヨリ生スルノ利益ヲ以テシ因

テ以テ罪犯ヲ豫防ス 第一葉

第十二 犯罪者ヲ探知シ得ルノ便宜ヲ備フ

(規則) 第二葉

第十三 犯罪者ヲ脱去シ難カラシム 第八葉

第十四 糾治處刑ヲメ可及的必然ナラシム 第八葉

第十五

主罪ヲ豫防センカ為ニ從罪ヲ禁ス

○從罪ノ四類○立法者ノ從罪ニ注意ス可キヲ(三條) 第六葉

第十六

慈愛心ヲ長養ス

第七葉

○人ノ慈愛心ニ勢力ヲ與フルヲ
○判論ノ主義ニ隨テ慈愛心ヲ用
ユルノ方法
ヲ定ムルヲ

第十七

榮譽ヲ好ム心ヲ擴充メ罪犯ヲ豫防ス

ス

第七葉

第十八

宗教信仰ノ心ヲ使用ス

第七葉

○立法者カ宗教ノ勢力ヲ増スノ
注意○宗教ノ利害○誓文ノ用否

第十九

諭示ノ力ヲ施メ罪犯ヲ豫防ス 第七葉

刑法論綱卷之八

第十章

衆多ノ人ニ與フルニ罪犯ヲ豫防ス

ルヲヨリ生スルノ利益ヲ以テシ因

テ以テ罪犯ヲ豫防ス

前章所説ノ諸件ト此章ノ論題ニ掲クル所トヲ

併セテ證明センカ為ニ一例ヲ示サン抑モ罪犯

ヲ豫防スルニハ其隱蔽スルヲシテ難クシ又

林董譯

ハ多數ノ人ニ之ヲ豫防スルノ利益ヲ與フルヲ
 要トナス者ナルカ故ニ今左ニ引ク所ノ例ヲ如
 キハ此二種ノ豫防法ヲ證明スルニ足ルヘキ者
 トス

英國ニ於テハ嘗テ郵書ヲ遞送スルノ法ハ事ノ
 遲滯多ク發着ノ期日ヲ愆タサルヲ太夕希ナリ
 キ然ル所以ハ郵便配夫ノ道ニ曳行シ只管自己
 ノ休憩ヲ計リ郵亭ハ之ヲ促迫スルヲ欲セス
 而シテ是等ハ固ヨリ犯則ナリト雖氏之ヲ監督
 スル者モ久シケレハ則チ倦ニ罰モ數スレハ自

ラ弛ニ隱密ノ偵察モ漸ヲ逐テ撓ニ一時其弊ヲ
 矯革シ得ルモ久シカラスニテ舊ニ復シ到底此
 犯則ヲ豫防スルヲ得サリキ

然ルニパルメルト云ヘル人アリ之カ為ニ一策
 ヲ施セシヲ以テ規則、偵察、監督、刑罰ヲ用ヰヌメ
 其弊ヲ革除シ改良ノ途ニ就クヲ得タリ
 其策トハ從來區々ナリシ所ノ郵書遞送ノ職ト
 旅客荷物ヲ通運スルノ職トヲ併合シテ一ト為
 セシニアリ爾後郵送ノ速カナルヲハ従前ニ倍
 シ旅人ノ接待モ亦一層丁寧ヲ加ヘタリ此ノ如

キ變化ヲ致シタル所以ハ宜ク研究スヘキナ
リ
旅客ハ恰モ郵夫ノ監督者ノ如ク途中ノ行止悉
ク其眼ニ遮ル所ト為ラサルハ無ク能ク其職ヲ
勤ムレハ則チ旅人ノ賞譽ヲ受ケ怠レハ則チ其
憤怒ヲ被ムリ甚キハ官府ニ告訴セラル、ニ至
ルモ旅客ハ固ト官ノ俸給ヲ得テ私カニ探偵ス
ル者ニ非ルヲ以テ間諜ノ謗ヲ受クヘキ者ニ非
ス然レハ則チ郵夫カ少許ノ勤怠モ之ヲ視ル者
多ク郵夫ハ怠テ罰責ヲ被ムルノ懼レヲ抱カン

ヨリハ寧ロ勤メテ賞ヲ得ント欲シ官ニテモ亦
費用無クシテ郵夫ノ勤惰ヲ知ルヲ得犯則少ナ
キカ故ニ罰責亦稀ナリ是此郵書ト通運トノ二
職ヲ併合シタル簡易ナル一策ヨリ生セシ利益
ニシテ郵書ノ遞送旅客ノ運輸共ニ向前ニ比ス
レハ頗ル快便ヲ加フルニ至レリ
此ハルメルノ策ノ如キハ以テ立法者カ工夫ノ
率表ト為スニ足ル此一事ニ於テ此ノ如キ利便
ヲ益セル所以ヲ推シテ以テ他ノ事項ニ及ホセ
ハ必ス効アリ是一理ヲ究メテ萬事ニ達スルノ

謂ナリ

第十二章

犯罪者ヲ探知シ得ルノ便宜ヲ備フ
 罪ヲ犯ス者多クハ人ノ知ル所ト為ラサルヲ
 僥倖スルニ由テ之ヲ犯スナリ故ニ之ヲ探知シ
 得ルノ便宜愈多キハ一般ノ安全モ亦從テ増
 ス夫レ家族アリ財産アリ定マレル居所アルハ
 ノ罪ヲ犯スノ患少キハ蓋シ此理ニ由ル貧困若
 クハ孤獨ニシテ恆産無キ者ハ法官ノ眼光ヲ避
 ケ得ルヲ最モ容易ナルカ故ニ特ニ危フムヘキ

モノトス

故ニ人ノ住所、氏名、年齢、職業、家眷ノ有無ヲ調査
 シテ詳細ニ記録スルヲ以テ警察ノ第一要具ト
 ス

地方ノ官吏ニ與フルニ充分ノ權ヲ與ヘ危疑ス
 可キ人民ノ糊口ノ方法如何ヲ糾訊シ其生計ヲ
 辨明スルヲ能ハサル者ハ之ヲ一所ニ集合セシ
 メテ看護スルノ處置ヲ為サシム可シ

此事ニ就テ注意スヘキノ條件ニアリ第一ニ違
 式條目ノ繁密ナルカ為ニ人民ヲ束縛スルヲ嚴

ニ過キ却テ違令者多キヲ致ス_レ勿_レ物情恟々
ノ際ニ於テ要用トスル條例モ其靜謐ニ復スル
ノ後ハ則チ之ヲ廢止ス可シ病ヲ養フカ為ニス
ルノ食餌ハ健康ニ復スルノ後復タ用フ可カラ
サルト同一ノ理ナリ第二ニ民心ヲ失フノ條規
ハ施行ス可ラス此邦ニ於テ施シ得ヘキ者モ彼
國ニ於テハ行フ可カラサル者アリ例ヘハ支那
ノ首都ニ於テハ每人其衣服ニ己レカ姓名ヲ記
シテ附着スルヲ要ス此法ハ國人ノ性質ニ由テ
之ヲ要用ト認メ或ハ之ヲ暴制ト認ム可キ者ナ

リ

衣服ノ制ヲ異ニスルモ亦大ニ警察ノ便ヲ為ス
男女服制ノ同シカラサルハ自然ニ存スルノ便
ナリ兵卒水夫僧侶ノ服制ノ如キ其用種々アリ
ト雖モ最モ主トスル所ノ用ハ之ヲシテ其長々
ル人ニ順從ナラシムルニ在リ英國ノ學庠ニ於
テハ生徒ノ服制アリテ他ノ人ト殊ニス而シテ
校則ヲ背ク為ニスル_レヲ除クノ外ハ其生徒ノ
身ニ取テ其服ヲ衣ル_レヲ不便ト為ス可キ_レ無
シ貧民學校無月謝ノ學校ノ生徒モ亦之ヲシテ一種ノ

服ヲ穿タシメ番號ヲ記シタル小標ヲ携帶セシ
 △
 方今人ノ姓氏ノ錯雜セルハ甚ク不便ナル者ナ
 リ姓氏也者ハ往昔世ノ未タ繁榮ナラサル時ニ
 方テ一村落ニ居住セル人民カ便宜ノ為ニ設ケ
 タル者ナルカ故ニ今國人ノ互ニ相來往シ雜
 居スル時ニ於テ充分ナル用ヲ為スル能ハス之
 ヨリシテ生スル不便勝ケテ數フヘカラス中ニ
 就テ最モ不便ナルハ人ノ姓氏ヲ以テ證據トス
 ルヲ能ハサルニ在リ衆多同名ノ人アルカ故ニ

姓氏ヲ以テ證據トスルハ衆多ノ同名ナル者ハ
 悉ク嫌疑ヲ被ムリ無辜者ノ困惑ハ却テ犯罪者
 ヲ隱蔽スル者トナル
 姓名法ヲ一革シ全國ノ人ヲシテ各殊別ナル姓
 名ヲ稱セシムルノ法無キニ非スト雖モ今ニメ
 之ヲ行ナハ、一時ノ紛擾甚シカル可シ唯自今
 而後長大ニ至ル殖民地等ニ於テハ宜ク此事ニ
 注意スヘキナリ
 英國ノ水夫ハ其手背ニ姓名ヲ刺スヲ以テ慣習
 トス是漂溺セシ時人ヲシテ誰ノ屍ナルヤヲ知

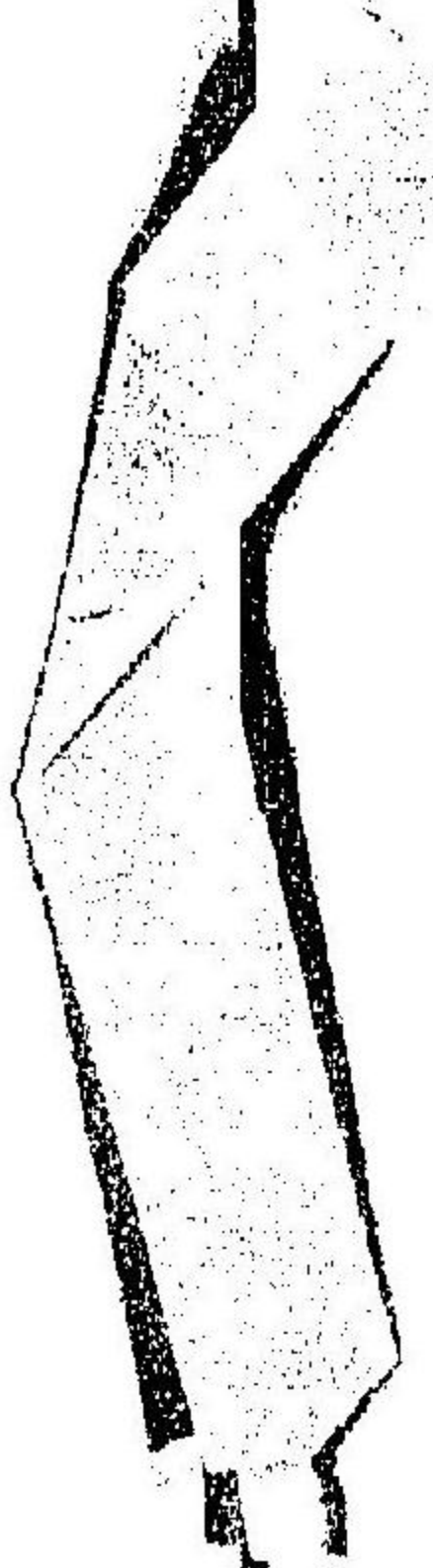
ラシメンカ為ナリ若シ此慣習ヲ擴充シテ一般ニ施行スルヲ得可クシハ道德ヲ勸奨スルノ助ケ多ク大ニ法律ノカヲ増ス可ク諸種ノ罪犯ヲ防クヲ得ヘシ中ニ就テ偽詐、哄騙、如キ多ク必相信スルノ道無クシテハ行フヲ能ハサル者ナルカ故ニ全ク之カ為ニ其術ヲ施ス所無キニ至ラン即チ犯者カ他人ノ姓名ヲ冒カスヲ能ハサルヲ以テナリ

姓名ヲ其手背ニ刺サシムルノ法ハ稍刺ニ波ラサルニ非スト雖氏亦之カ為ニ人身ノ自由ヲ得

ルヲ多シ看ヨ人身ヲ看護スルノ目的ヲ以テ之ヲ禁錮スル事ノ如キハ之ニ代ユルニ其姓名ヲ刺スルノ法ヲ以テシ無形ノ鎖索ヲ以テ繫ク片ハ全ク之ヲ廢シテ可ナリ

或ハ云ク佛國變動ノ時ニ方テ形ヲ換ヘ名ヲ假リテ死ヲ免カレタル者多シ當時若シ刺名ノ法アリシナランニハ之ヲ脱カレ得タル者アル可カラスト是理ニ似タル所アル辯駁ナリ蓋シ世人ハ多ク如此ノ法ヲ厭フカ故ニ辯難攻撃スル者多シト雖氏耐忍ト權謀トヲ以テスレハ遂

ニ世人ノ意見ヲ轉スルヲ得ル疑フ可カラス
 就中高貴ノ人ノ卒先スルアラハ之ヲ施行スル
 亦甚タ難シトセス若シ時ノ顯貴者其額上ニ姓
 名ヲ刺スヲ以テ古來ノ習俗タラシメハ各人ノ
 思想上ニ榮爵ト威權トノ念ヲ起シ人皆之ニ倣
 ハントヲ欲セサルヲ無カラシ南洋ニ一島アリ
 其女子ハ悉ク疼痛ヲ忍ムテ花卉ヲ其身體ニ刺
 繡スルヲ以テ俗トス是其舊慣ニシテ美麗トス
 ルノ念ヲ生スレハナリ其刺繡法ハ鍼ヲ以テ表
 皮ヲ刺シ色粉色汁ヲ擦入スルナリ



第十三章

犯者ヲシテ脱去シ難カラシム

此法ハ其國ノ地位天造若クハ人造ノ障礙物ノ
 多寡ニ應シテ之ヲ行フノ難易ヲ殊ニス魯西亞
 ノ如キハ人煙稀疏ニシテ氣候沍寒ナルカ為ニ
 行旅便ナラサルヲ以テ大ニ此法ヲ施スニ便ア
 リ若シ然ラサレハ如是大國ニ在テハ此法ハ太
 タ行ヒ易カラサルヘシ

彼得堡ペトログラドリガニ於テハ數日間新聞紙ヲ以テ公告

シタル後ニ非レハ旅行免狀ヲ與ヘス是負債ア

ル者ノ偽計ヲ防クノカアリテ大ニ貿易ノ為ニ
安全ヲ保ツ

凡ソ報知ヲシテ速ニ各地ニ達セシムルノ便宜
ヲ増ス者ハ皆犯人ノ脱去スルヲシテ容易ナ
ラサラシムルノ効力アル者トス

第十四章

糾治處刑ヲメ可及的必然ナラシム

犯者ヲ糾治シ刑ニ處スルノ方法ヲ詳述セント
スルニハ數萬言ヲ要ス固ヨリ一章中ニ網羅ス
可キニ非ス故ニ此章ニ於テハ摘要メ二三ノ條

件ヲ掲ケン

一ノ犯罪アル所ニハ地方ヲ管轄スルノ有司ニ
報知スルヲ以テ社會ノ公利トナス其報知ハ確
然タルヲ要シ有司ヲシテ疑危スル所アラサラ
シムヘシ又犯者ノ捕ハル、者アル所ハ罪ノ實
否有無ヲ公然審判證明セシムルヲ以テ社會ノ
公利トス故ニ證ヲ取ルノ法ト糾治スルノ法ハ
確實ナル報知ハ悉ク之ヲ得テ遺ス所ナク虚偽
ノ報知ノ事ヲ過マルノ媒ト為ヘキ者ハ之ヲ取
ルヲ無カラシムヘキ措置ヲナスヲ要ス

天既ニ人ニ示スニ善良ナル糾治法ノ模範ヲ以テセルアリ主翁カ其家眷奴婢ノ上ニ立テ其所為ノ良否ヲ審判スルヲ視ヨ之ヲ天然ノ審判法ト謂フ可シ而シテ人或ハ為ニスル所アリテ正ク真偽ヲ判断スルヲ能ハサリシヨリシテ此天然ノ審判法ハ之ヲ國ノ法衙ニ用ユルヲ得サルニ至レリ善良ナル法官ハ即チ善良ナル家翁ト同シ唯其管理スル所ノ區域稍濶大ナルニ主翁カ家眷ノ所為ノ正邪ヲ審判スル方法ハ法官ノ須ク之ニ則トルヘキ者タリ蓋シ法衙也者

ハ固ト家翁ノ所為ニ倣フテ發起シタル者ナルカ故ニ須臾モ其模範ノ性質ヲ離ル可カラサルナリ
法官ノ人民ニ於ケル主翁ノ家眷ニ於ケルカ如ク親愛ノ情アルニ非ルハ固ヨリ論無シ故ニ人民ノ法官ヲ信スルヲ亦家眷ノ主翁ニ於ケルカ如ク厚カラサルナリ然リト雖氏之カ為ニ糾治ノ方、證ヲ取ルノ法、ヲ異ニス可キ理由アルヲ無シ唯法官ニ在テハ賄賂、偏頗等ノ諸弊ハ嚴ニ之ヲ豫防スルヲ要ス

英國ニテハ左ノ如キ法規ヲ用ユルヲ許ス
 第一人ハ自身ニ關スル事ニ於テ證人タルヲ
 ヲ得ス
 第二人ハ自身ニ對シテ自ラ告訴スルヲ得
 ス
 第三訟ノ事項ニ干係アル人ハ證人タルヲ
 得ス
 第四重聽ノ證ハ之ヲ採納セス
 第五一回裁決アリシ罪犯ハ再ヒ之ヲ糾治ス
 ルヲ得ス

古來ノ諺ニ曰ク英國ハ全ク他國ト隔離スト凡
 ソ裁判法ノ全體ノ如キハ我カ茲ニ論セントス
 ル所ニ非ス英國ノ法理ノ各邦ニ優ル所アル者
 ハ右等ノ法規アルニ由ルカ將タ英國行法ノ柔
 弱ニシテ犯罪ノ多キハ此法規ノ致ス所ニ非ル
 ヤ否ヤハ更ニ討議スル所アル可シ予カ茲ニ於
 テ言ハントスルハ諸ノ持重法ハ無辜ノ人ヲ保
 護スル為ニ全ク必要ナル者ヲ除クノ外ハ皆犯
 罪者ノ潜伏所トナルノ害アリ法官ハ法律ノ規
 箴アルカ為ニ其法ヲ施行スルヲ妨礙セラレ

其職務ヲ行フヲ能ハス其事ニ害アルヲ法ヲ以テ法ヲ妨クルヨリ甚キ者アルヘカラス前ノ五條ノ箴言ノ如キ例ヘハ一ノ無辜ヲ害セニヨリハ寧口百ノ有罪ヲシテ脱カレシムルヲ可トスト云カ如シ然レモ無辜者ノ安全ヲ保ツハ犯者ヲ除去スルノ外ニ道ナシ一ノ犯者ヲシテ僥倖ニ法網ヲ脱スルヲ得セシメハ是啻ニ無辜者ヲ保護セサルノミナラス又新夕ニ罪犯ノ害ニ罹ラシムル者ナリ罪ノ疑ハシキカ為ニ一ノ兇漢ヲ解放スルハ其兇漢カ向來行フ所ノ罪犯

ハ解放者カ其手ヲ假テ之ヲ為セシニ殊ナラス罪犯ヲ糾治スル方法ノ錯雜ナルハ行法ノ由テ柔弱ヲ致スノ淵源ニシテ罪犯者ノ多キヲ致ス由縁ナリ法律明白ニシテ罪犯アルハ徑チニ之ヲ訴フルヤ原告即チ證人タリ若シ其犯罪ノ事情ヲ法官カ自ラ目撃スルハ法官ト犯者トノ二人ノミニテ斷獄ノ事成ル證人ト判官トノ務ノ殊ニスル所以ハ他無シ時ト所トノ相隔離スルニ由ル者ナリ然リト雖モ時トシテハ犯者ヲ捕拿シ得ルヲ遲ク諸ノ證人ヲ集ムルニ時

日ヲ要シ犯者モ亦其無罪ナルヲ辯明セント
 スルヲアリ此等ノ事ハ渾テ裁決ノ遲延ヲ致ス
 ヘキノ獄タリ故ニ遲延スル時ハ偶然ニ不虞ノ
 事ヲ生シテ更ニ遲延シ易キニ至リ而シテ法官
 ノ為ス所ハ愈紛雜ス其順序ヲ整頓シ明瞭ナラ
 シメンカ為メニハ此諸事ヲ一人ニ委任スルヲ
 要シ茲ニ於テ犯罪ノ原告ヲ主務トスル者出ツ
 是ハ證人中若クハ其獄ニ關係アル人ノ中ヨリ
 選拔シ或ハ一官吏ヲシテ常ニ之ヲ司トラシム
 凡ソ糾彈ノ務メハ之ヲ各部ニ分チ諸種ノ證左

ヲ集採スルノ判官ハ自ラ其獄ヲ斷スルノ權無
 ク更ニ之ヲ他ノ判官ニ附シテ決斷セシム又其
 判官ハ前ノ諸證左ヲ集ムルノ判官アルニ非レ
 ハ其證左ノ過半ハ消滅スル比ニ非レハ之ヲ裁
 決スルノ暇ヲ得サルナリ加之何等ノ邦國ニテ
 モ法庭ヲ開クニ多少不要用ナル式例アリ此式
 例ニ背カサランカ為メニハ更ニ之ヲ司トルノ
 職ヲ設ケサル可ラス遂ニ法庭ニ立テ罪犯ヲ糾
 治スルヲハ一ノ學術トナリ他ノ罪犯アル者ニ
 對シテ原告ヲラントスル者モ自ラ之ヲ為スヲ

得スレテ之ヲ狀師ニ委任スルヲ要シ其狀師タル者モ亦其上ニ立ツ所ノ法律家ノ援ケヲ假ラサルヲ得ス
是等ノ不便ニ加フルニ更ニ左ノ二條ノ不便アリトス
第一立法家ハ法庭ヲ開クカ為ニ其訴訟入費ヲ徴スルヲ允許スルヲ以テ其成跡ハ保護税ト一般ニテ最モ法庭ノ助ケヲ要スル人ニ向テ法庭ヲ閉鎖スルヲ欲スルノ情ヲ為サシム是レ法ヲ立テ、猶ホ且ツ其法ノ利益ヲ被ムルヲ禁

スルト大ニ殊ナル所無キニ似タリ
第二公衆ハ罪犯糾治ノ原告タル人ヲ厭忌スルノ念アリ是固ヨリ偏見昏愚ノ致ス所ナリ而シテ立法家ハ公衆ノ想像上ヨリ此念ヲ除却スルヲ計ラヌ翻テ之ヲ勸獎ス
此ノ如ク遲延ト錯雜アルトヨリ生ヌル所ノ結果ハ甚タ賭難シトセヌ到底法律ノ行ハレサルヲ致スニ歸ス人自カラ目撃セルヲ以テ直チニ法司ニ告クルルハ其費用ハ瑣小ナル可シ若シ其中間ノ手數ヲ増スルハ之ニ准シテ費用モ

亦從テ増スノミナラス時日ヲ費シ煩勞多ク且ツ裁決ノ結局確然タラス其實如斯キヲ見テ猶ホ希レニ敢テ原告トナル人アルハ實ニ不可思議ノ事ト為スコシ然リト雖モ若シ公衆カ訴訟ノ費ノ莫大ナルヲ知リ其控訴ノ時トシテハ無効ニ屬スルヲ知ラハ原告タル者ハ彌希ナルヘシ

此等ノ困難不便ヲ除去セント欲セハ官府ニ於テハ原告人ヲ選任シ凡ヘテ訴訟ノ事ヲ執ラシメ其費用ヲ官帑ヨリ出スノ法ヲ設クルニ在リ

然ルホハ探偵者ノ為ニ多クノ費用ヲ要セス俸給ヲ要セスレテ告訴スル者ハ自然ニ多ク法律トシテ施行セラレサルハ無ク其法律ノ結果ノ美惡ハ自カラ判然タルヲ得善法ハ存シ惡法ハ革メ告訴スル者ハ賞ヲ貪ルカ為ニセサルカ故ニ其謂フ所信ヲ置クニ足り又犯罪者ハ私カニ訴人ニ利ヲ啗ハシメ以テ刑罪ヲ免カル、トヲ得サルニ至ラン

英國ノ法庭ニ出テ罪犯人ニ對シテ原告タル者其費用ノ最モ鮮少ナル者ヲ一百四十圓ト

ス是平民一年ノ産ニ充分ナル金額ナリ然レハ希レニ原告ト為ル人アルハ太夕疑恠スヘキト云モ可ナリ

英國ニ於テ重罪ヲ犯セル者ニ於テハ法衙ノ許可無クシテ告訴人カ犯者ト和解スルヲ禁ス然ルモ原被兩造ノ利益ニ關スル事ニ至テハ果シテ其禁法ヲ守ルヲ保スル能ハス

第十五章

主罪ヲ豫防センカ為ニ從罪ヲ禁ス一罪ヲ犯ス所行ノ原因トナル者ヲ從罪トイヒ

以テ罪ヲ犯ス所行ヲ主罪ト為スニ對ス譯者曰主罪從罪ト譯スル者ハ未夕適譯ヲ得サルカ故ニ唯其文字ヲ假用スルノ三我法律ノ語ニ用ユル主從罪トハ自ラ其主義ヲ異ニス讀者宜ク本文ニ就テ其字義ヲ見ルヘシ

主罪ヲ犯ンカ為ニ之カ準備ヲ為ス所為ハ悉ク之ヲ從罪トス故ニ此各種ノ從罪ノ類ヲ一々ニ明示レテ之ヲ禁スル中ハ大ニ主罪ヲ減スルヲ得ヘシ是其罪犯ヲ始メニ抑止レ得サルモ猶ホ其未夕成就スルノ期ニ及ハスレテ之ヲ制スルヲ得ヘケレハナリ綿密ナル立法家ハ恰モ兵略ニ長セル將帥ノ如ク敵軍ノ動作ヲ丈ヘシ

カ為ニ地形ヲ案シ要害ノ地ヲ簡ムテ保寨ヲ築
 キ彼此連絡シ能ク敵徒ヲシテ攻ヲ進ムルヲ難
 カラシムル者ナリ
 立法家ノ為ス所ヲ見ルニ未タ善ク此策略ヲ用
 キタル者無シト雖モ亦全ク此法ヲ排斥シテ用
 キサリシ者無シ
 例ハ、獵場ノ野獸ヲ竊ムノ罪犯ニハ其獸ノ種
 類ニ從テ之ヲ獵獲スル網罟等ノ具ヲ造ルトテ
 從罪トシテ之ヲ禁セリ
 禁物ヲ賣買スルトト貨幣ヲ贗造スル等ノ犯罪

モ之カ準備ヲ為スノ所行ヲ禁セリ
 今茲ニ殺人傷人等ノ罪犯ヲ防クカ為ニ其從罪
 ヲ禁スルノ數條ヲ掲クヘシ
 人ヲ攻撃スルノ便アリテ容易ニ匿シ得ヘキ兇
 器ヲ携帯スルトテ禁ス
 聞ク和蘭ニ於テ一種鐵様ノ器ヲ制シ之ヲ管中
 ニ措キ吹テ人ニ中ツレハ以テ人ヲ殺スニ足ル
 ト如此器ヲ造テ之ヲ嚮キマタ之ヲ携フルトテ
 嚴禁スヘシ
 或問テ曰ク英國ノ剪徑賊ハ槩子短銃ヲ用ユ然

レハ是モ亦其製造ヲ禁ス可キカ答フ之ヲ禁ス
 ルノ便否ハ未タ説定シ易スカラス凡ソ賊ノ用
 エル兇器ノ中ニ就テ襲ハル、人ノ為ニ最モ危
 險火ナキ者ハ火器ナリ是唯脅嚇、為ニ用ユル
 者ニシテ直チニ之ヲ放ツ者ハ無益ニ盜罪ニ殺
 人罪ヲ加フルカ故ニ賊ト雖モ亦之ヲ為サ、ル
 ノミナラス一回之ヲ發スルモ亦自ラ衛ルヘ
 キ物無キカ故ニ火器ハ濫リニ放發スル者ニ非
 ス劔若クハ棍ヲ用ユル者ハ之ト異ナリ或ハ始
 ヲリ之ヲ用ヒ其尾シテ追ヒ及ハル、トヲ懼ル

ルヤ復タ之ヲ用テ遂ニ追フ所ノ人ヲ殺スニ至
 ル

毒藥ヲ賣ルヲ禁スルニハ宜ク毒藥ノ目錄ヲ
 作ルヲ要スヘシ全ク之ヲ賣ルヲ禁スル能ハ
 ス有効ノ藥ハ其分量ヲ多クスル故ニ其賣買ノ
 規則ヲ定メ賣者ヲシテ之ヲ購求スル人ヲ記臆
 セシメ之ヲ賣ルモ證人ヲ立テ其賣買ヲハ更
 ニ之ヲ簿冊ニ登記セシムヘシ然リト雖モ急速
 ヲ要スル時ノ為メニ多少ノ猶豫ヲ與ヘサルヲ
 得ス渾テ此規則ヲシテ完備ナラシメンニハ事

繁細ニ亘ラサルヲ得ス故ニ其事ノ繁細ナルニ
 モ拘ラス此規則ヲ定立スルニ利アルヤ否サル
 ヤハ其國人ノ風俗ニ由テ異ナリ人ヲ毒殺スル
 一ノ多ク行ハル、國ニ於テハ繁細ナリ凡必ス
 此法ヲ設ケサルヲ得ス昔時羅馬ニ於テハ最モ
 此法ヲ施設スル一ヲ以テ緊要ト為セシナルヘ
 シ
 從罪ノ種類ハ之ヲ四個ニ分ツ

第一種ハ主罪ヲ犯サントノ主意ヲ以テ之ヲ為
 ス者斯ハ其企謀犯罪ノ部類ニ在リ

第二種ハ全ク罪犯ヲ企謀スルニ非スト雖凡人
 ヲシテ犯罪ノ意ヲ起サシム可キ地位ニ置ク者
 即チ貧困ナル上ニ賭博ヲ好ミ財ヲ浪費シ或ハ
 怠惰ナルカ如キ獸畜ニ慘酷ナル一ハ又人ニ對
 シテ慘酷ナル初歩トナルカ如キ是ナリ
 第三種ハ犯罪ノ意向アルニ非スレテ偶然罪ヲ
 犯ス者此種ノ犯罪ハ多ク災害ヲ防クカ為ニ設
 ケタル法則ヨリ生ス例ハ毒藥或ハ火藥ノ賣
 買ヲ禁スルノ法アリ而シテ此法ヲ犯ス者ハ第
 三種ニ屬ス

第四種ハ罪犯ニ准スル者即チ犯罪ノ徵候ト為
ス可キ所行ヲ云フ之ヲ見徵ノ罪犯ト名ク英國
ノ法ニ由テ私子ノ生レタルヲ匿クス所ノ母ハ
殺人ト同シキ刑罰ヲ被ムル何トナレハ是必ス
其子ヲ殺スノ徵ナレハナリ又形チヲ變シ兇器
ヲ持シタル人ノ會合スルハ收稅吏ニ抗敵スル
ノ徵ナルカ故ニ死ヲ以テ之ヲ罰ス又賊物ヲ所
藏シテ分明ニ其由来ヲ辯白スルヲ能ハサル者
ハ偷兎ニ與ミシタルノ徵ナルヲ以テ之ヲ犯罪
ニ擬ス又難破船漂流品ノ印ヲ磨滅スル者ハ之

ヲ盜マントスルノ徵ナルヲ以テ之ヲ犯罪トス
如此ノ徵候ノミニ由テ之ヲ罪犯ト定メタル所
以ハ蓋シ斷獄法ノ信憑スルニ足ラサルト判官
ノ明智ニ委頼スル能ハサルトノニヨリ生セル
ナリ何トナレハ英國ノ立法者ハ其判官カ惻隱
ノ心ノ常度ヲ踰エ確然犯罪ノ徵アル者ト雖モ
猶ホ之ノ罰スルヲ能ハサルヲ憂ヒテ此等ノ所
行ヲ第二種ノ犯罪トシテ法律ノ明文ニ掲ケタ
ルナリ全ク法衙ニ倚信スルノ國ニ於テハ是等
ノ諸件ハ別ニ條目ヲ掲ケス其徵候ニ由テ之ヲ

有罪ト認ムルト或ハ徵候アリト雖モ其情ヲ斟酌シテ無罪ト為ストハ全ク判官ノ意見ニ一任ス
 徒罪ノ事ニ就テ立法官ノ注意ヲ要スルニ三ノ事項ヲ示サン
 第一ニ其々ノ行為ヲ以テ主罪ナリト定ムルモニ於テハ之カ徒罪タル所行ヲモ亦悉ク禁止スヘシ而シテ其罰ハ主罪ニ一等ヲ減ス勿論特別ノ理由アル者ハ此例ノ外ナリ
 第二主罪ノ條目ヲ公布スルモ其徒罪ノ條目

ヲモ公布スヘシ
 第三徒罪ノ條目ヲ定ムルニ方テハ之ヲシテ人々ノ自由ヲ妨クルカ如キ多クノ制限ヲ設ケ或ハ無罪ノ人ヲ有罪ニ陥ルカ如キ患無カラシムルニ注意スヘシ凡ソ徒罪ノ條目ヲ定ムルハ恒ニ危殆ナル者ナリ故ニ其罪ヲ決定スヘキ徵候ノ多寡深淺ノ度ハ判官ノ意見ニ依ルヲ要ス然レハ則チ判官ニ告クルニ其犯罪ノ事實ヲ以テスル者ト同シク判官ハ其意見ニ由テ無罪ト認ムルモ之ヲ免スヲ得可シ必シモ法

律ニ其條目ヲ載セタル故ヲ以テ無辜ヲ罪スルノ不便アラサルヘシ
 若シ從罪或ハ未タ果シ遂ケサル所ノ罪犯ヲ罰スルコトヲシテ主罪若クハ既ニ成シ遂ケタル所ノ罪ヲ罰スルト同シカラシメ半途ニシテ悔悟シ其所行ヲ中止スルノ機ヲ與ヘサレハ則チ諺ニ所謂毒ヲ啖テ器ヲ舐ルノ念ヲ起シ犯罪者ハ之ヲ中止スト雖モ至竟其罰責ヲ免カレズ進ムモ敢テ刑ノ重キヲ加ヘサルニ因テ終ニ其惡ヲ果シ遂ンコトヲ試ムヘキナリ

第十六章

慈愛心ヲ長養ス

慈愛ノ心ハ名聲ヲ好ムノ心ト殊ナリ此心無クシテ彼ノ心一個ニシテ動作スルコトヲ得ヘシ慈愛ノ心ハ天性ニ由ルト雖モ多クハ是教育ニ由テ長養スルコトヲ得英國人ト印度人ト野蠻ノ世ト開化ノ時トヲ比シテ孰レカ慈愛心ノ多キヤヲ較フ可レ而シテ慈愛心ヲ成育シテ長大ナラシムル者ハ名聲ヲ好ムノ心之カ輔ケヲ為スニ由ル世ノ道德者カ仁慈博愛ノ心ヲ説クハ最

モ喜スヘキ形状ヲ與ヘ以テ之ヲ説明シ自恣暴
戾ノ心ヲ説クハ最モ心術ノ邪曲ナル者トシ
テ之ヲ説ク其志ス所ハ全ク社會ノ為ニスルノ
仁慈心ト半ハ社會ノ為ニシ半ハ自家ノ為ニス
ル所ノ好名心トヲ併セテ之ニ與フルニ同一ノ
方向ヲ以テレ而シテ互ニ相獎勵セント欲スル
ナリ若シ其志ス所ノ成就スルヲアラハ此二種
ノ心ノ中孰レカ慈愛ナル事ヲ成就スル原因ト
為スヘキカ彼此共ニ其原因ニシテ慈愛心ハ其
近因タリ好名心ハ其遠因タリ人若シ慈愛心ヲ

起スハ固ヨリ其好名心ノ為ニ之ヲ提擲スル
トヲ言フヲ欲セス蓋シ好名心ハ必ク私アルノ
心ナルヲ自ラ知ルヲ以テナリ凡ソ人ノ情欲
善良ナル心性ノ行ニ發スルトアルハ他ノ心
ニ由テ攪起セラレタリト云フヲ肯シセス必ス
其心ノ自ラ發起セル者トスルナリ
茲ニ立法者ノ宜ク著意ス可キト二條アリ第一
ハ人ノ慈愛心ニ一層ノ勢力ヲ與フルト第二ニ
利論ノ主義ニ從テ其慈愛心ヲ用ユルノ法ヲ定
ムルト是ナリ

第一立法官タル人若シ人ノ慈愛心ヲ增長セン
 一ヲ欲セハ己レ先ツ其率表タル可シ凡ソ人ノ
 生命ハ之ヲ尊重スヘキ一固ヨリ論ヲ俟タス渾
 テ人ノ感覺ヲ傷マシムル一モ亦之ヲ等閑ニ付
 スヘカラス慘酷ナル法律ハ人之ヲ恐レ之ヲ傲
 ヒ之ヲ怨ムヲ以テ人性ヲシテ慘刺ナラシム寛
 裕ナル法律ハ其國風民俗ヲシテ温厚ナラシメ
 政府ノ精神自カラ下達シテ人心モ之カ為ニ仁
 愛ニ傾向ス

立法家ハ凡ソ人ヲシテ慘酷ナル心ヲ起サシム

ヘキ事項ハ悉ク之ヲ禁遏スヘシ往昔羅馬共和
 政治ノ末ニ方テ人ヲ鬪ハシメテ遊觀トセシ一
 アリ羅馬ノ内亂起ルニ方テ人性酷烈ナリシハ
 其遊觀ノ之ヲ致セル所多シ遊戯ニ於テスヲ猶
 且人ノ生命ヲ塵芥視スル人ニ對シテ焉ソ内
 亂ノ日慘酷ナル氣象ヲ激動セシ時人ノ生命ヲ
 貴重スヘキヲ期スヘケンヤ

故ニ禽獸ニ對シテ慘酷ナル一ハ遊戯ノ為ニス
 ル一ト雖且之ヲ禁スヘシ鬪雞牛鬪西班牙ノ遊
 戯ニシテ牛
 ト人トヲ狐兔ノ獵等ノ類ノ遊戯ハ思慮無キ者
 鬪ハシム

ニシテ仁慈ノ心ヲ失ヘル者ト云ヘシ何トナレ
 ハ是等ハ感覺アル所ノ動物ニ與フルニ不生不
 死ノ連綿タル苦痛ヲ以テスル者ナレハナリ人
 固ヨリ禽獸ヲ殺スヲ得ヘシト雖氏之ニ與フ
 ルニ永キ苦痛ヲ以テスルノ所行ハ之ヲ禁止ス
 ヘシ故造ノ死ハ自然ノ死ニ比スレハ其苦痛少
 キヲ得可キカ故ニ其捷法ノ如キハ須ク研究
 スヘキトナリ凡ソ知覺アル物ニハ禽獸ト雖氏
 應分ノ保護ヲ與フ可キトナリ後來慈愛心ノ遍
 滿シテ凡ソ呼吸アル物ニハ其仁ヲ及ホスノ期

アラシ既ニ奴隸ノ情態ヲ憫レムノ念ハ世人ノ
 腦裏ニ發セリ終ニハ人ノ為ニ勞シ人ノ用ヲ辨
 スル禽獸ノ苦ヲモ軽減スルニ至ルヘキナリ
 支那ノ立法者ハ其禮ヲ制スルヲ精且密ナリ其
 志ニ所ハ仁心ヲ長養スル為ナルカ將タ治安ノ
 為ニセシカ我カ知ル所ニ非ス唯支那ニ於テ所
 謂禮也者ハ殆ト祭祀ノ法ノ如キ者ニシテ教育
 ノ眼目至重ノ學術トハ為レリ支那人ハ語嘿動
 靜苟モ禮ニ依ラサレハ之ヲ恣ニスルヲ能ハス
 其文體ノ運動ハ恰モ兵卒ノ操練場ニ在ルト

般ナリ抑モ諸禮ノ繁密ニ過クルハ誠心ヲ勤ムルノ力薄キモノナルカ故ニ支那人ノ仁義ノ舉動ハ其實無キヤモ未タ知ルヘカラス何トナレハ如斯拘束法ハ人心ニ適當セサルモノナルヲ以テナリ

國民ハ憎嫉心アリテ之ヲ拔除スルヲ難キ者ナリ其憎嫉心トハ宗派ノ異ナル者相憎嫉ニ種族ノ門流其祖先ノ讎敵心ヲ承繼シテ相憎嫉スルアリ人民ノ爵位アルヤ貴賤相憎嫉ニ略取セル國ニ於テ贏者輸者相憎嫉ニ政黨ノ勝敗亦憎嫉

ス何等ノ邦國ノ民ニテモ是等ノ憎嫉心アラサルハ無シ人心ハ憎嫉ノ為ニ黨與ノ互ニ聯結スルヲ相愛ノ心ヲ以テ連結スルニ比スレハ更ニ多シトス故ニ人ヲシテ相愛セシメント欲セハ先ツ壓制ノ心ト恐怖ノ心トヲ去リ由テ以テ古來偏執固陋ノ心ヲ除クベシ之レ道德ヲ進ムル第一ノ要訣タリ

モンゴロ、パークノ亞非利加紀行ニ黑人ノ風俗篤實ニシテ友愛ナルヲ寫シ出セルニ由テ大ニ世人カ黒奴ヲ賤視スル偏頗ノ心ヲ去リ之ヲ

親愛スルノ情ヲ起サシメタリウオルトールノ如キハ之ニ反シテ其論述セル書ヲ見テ猶太人ヲ厭フノ心ヲ起サ、ル人無カル可シ若シウオルトールカ自己ノ偏執心ノ為ニ蔽ハレサリレキハ假令猶太人ノ卑陋ナルヲ記スルモ宜ク猶太人ノ性質ヲシテ卑陋ナラシムル所以ハ世人カ彼等ヲ賤視スルニ由ルヲ論シテ彼國人ノ卑陋心ヲ改良スル道ヲ示スヘキナリ之ニ由テ此ヲ觀ルニ譏刺ニ涉ルノ論說ヲ為ス著作家ハ甚タ世人カ慈愛心ヲ鼓舞スルヲ妨ク而

シテ其最モ之カ障礙ヲ為ス者ハ一派ノ宗教ヲ崇奉シテ他ノ宗派ヲ排斥スルニ在リ是其己レカ宗派ニ非ル人ヲ以テ神敵トシテ之ヲ憎惡厭忌スルニ至ルカ故ナリ
英國ニ於テハ人ノ慈善心ニ由テ為セル行事ヲ世ニ公布スルヲ以テ益其心ヲ獎勵スルヲハ他國ニ優レリトス今救貧ノ病院若クハ學校ノ如キ公院ヲ設ケントスル時ハ慈善心アリテ事ヲ興スヲ欲スル者集合シテ之カ委賁トナリ其事ヲ為スニ要用ナル金額ヲ新聞紙ニテ公告シテ

之ヲ徵募シ其奇附セル人ノ名氏ハ日々新聞紙
ヲ以テ公示ス如此汎ク世ニ公告スルノ用ニア
リ一ニハ金額出納ノ正確ナルヲ保證シ一ニ
ハ世人ノ好名心ヲ誘テ能ク慈善ノ目的ヲ達ス
如此慈善ノ社中ニ於テ毎年金ヲ寄附スル人ニ
ハ幹事ノ稱ヲ與フ彼徒ハ一社ヲ管理スルヲ以
テ自ラ其職ヲ喜フノ情アリ故ニ初メノ善行ヲ
中止セス永ク之ヲ相續スルヲニ由テ多少ノ威
權ヲ有スルヲ好ム且ツ時々不幸ナル者貧困
ナル者トニ近接スルニ由テ惻隱ノ心亦自ラ増

長ス夫レ此心ハ貧困不幸ノ人ニ接近スル片ハ
増加シ之ニ反シテ疎濶ナル片ハ滅殺スル者ナ
リ是等ノ慈善ナル會社ノ龍動ニ在ルノ數ハ巴
黎斯ニ於ケル寺院ノ數ヨリモ多シ
此會社ハ各其目的トスル所一様ナラス或ハ瞽
人或ハ孤兒寡婦癡疾老タル水夫僧侶ノ子等ヲ
救養シ或ハ教育ス蓋シ各其憐憫スル所同シカ
ラス瞽子アル者ハ瞽人ヲ憐ムカ如ク人毎ニ必
ス其身ニ於テ感スル所ニ出ル者アレハナリ勿
論如此會社ヲ平分シ各種ノ不幸者ヲシテ遍ク

慈善ノ賜賚ヲ布及シ以テ遺漏ナカラシムルノ術多シ

女子ハ男子ニ比スレハ慈善ノ心ヲ發動シ易キ者ナリ然ルニ慈善ノ社ヲ設クル者ニシテ女子

ヲ勸奨スル稀ナルハ解シ難キナリ獨リ佛國

ニテ革命ノ亂一千七百九十年代ノ亂云ヨリ前ニ此事ニ適

當シタル二個ノ會社アリ其一「ドウトルス、オフ、

チアリテ」慈善ヲ行フハ病者ヲ看護スルヲ

務メトシ「巴黎ス」ソサイテ、オフ、マテルナル、

チアリテ」母ノ慈愛ハ社員ニ有夫ノ女子ニ

シテ貧女ノ妊娠セル者ヲ訪フテ之ヲ看護シ其生兒ヲ養育スル者ナリシ

第二慈善心也者ハ動モスレハ公利ノ道ニ戻ル

者ナリ是等ハ教令ニ由テ釐革スヘキニ非ス命

令ト威權トヲ以テ制スルモ其効ナキ者ナリ慈

善心ニ由テ人ヲ哀矜スル目的ノ大小ヲ區別シ

其ヲシテ公利ニ適セシムルニハ稍世人ヲ教導

セサルヘカラスフエ子ロシノ言ハ能ク人心ヲ

導クノ規準ト為スヘシ其言ニ曰ク我ハ我家眷

ヲ愛スルヲ我身ヨリ厚ク我國ヲ愛スルヲ我家

眷ヨリ厚ク一般ノ人類ヲ愛スルヲ我國人ヨリ
深シト
去レハ國人ヲ教育スルニ其慈善心ヲシテ公利
ニ適セシメ姑息ノ仁惠ヲ斥ケテ一般ノ利益ヲ
計ラシムルヲ第一義トス家門ノ争種族ノ争
政黨ノ争宗派ノ争ハ愛國ノ義ニ背クカ故ニ之
ヲ為スヲ耻トスヘク又與國ヲ讎視スルヲ以
テ愛國心也者ト誤認スルヲ抑止スヘシ又慈
愛心ノ方嚮ヲ誤テル者ハ脱營セシ兵卒若クハ
密賣セル高估等國法ニ反ハケル罪人ヲ哀憐メ

之ヲ匿クシ或ハ其逃匿セルヲ見テ之ヲ寛假シ
又ハ博施ヲ好テ乞兒ヲ増ス等ノコトアリ是等ハ
小慈小惠ノ翻テ不慈不惠トナルノ義ヲ明カニ
シ之ヲシテ公利ノ道ニ適セシム可キナリ文化
ノ進歩スルニ隨ヒ人ハ相助クルニ由テ互ヒニ
利アルコトヲ知リ以テ普ク一般ノ人類ニ及ホス
ノ仁惠心ヲ起ス例ヘハ外國貿易ノ如キモ不開
化ナル國人ハ彼ニ損失ヲ被ラシメサル中ハ我
カ利ヲ得ルコト能ハスト為シ互ヒニ讎敵ノ看ヲ
做ス然ルニアダムスミツトノ著書ニテハ貿易

ハ彼此共ニ其土地ノ産出スル所ニ應シキ互ニ利ヲ得國ヲ殊ニシ言語ヲ異ニスルモ原ト是レ世界一大貿易市場ノ社貢ニシテ仇敵ニ非ルヲ懇切ニ辨明セシカ故ニ一般親愛ノ心ヲ起ス
 一ヲ勸誘スル所ノ著述トス

第十七章

榮譽ヲ好ム心ヲ擴充シテ罪犯ヲ豫防ス

人ノ榮譽ヲ好ム心ヲ擴充シ其施用ヲシテ宜キヲ得セシム可キハ當サニ立法家ノ著意ス可キ

一ナリ

榮譽トハ世人ノ讚美シ欽羨スル所トナルヲ云ナリ故ニ輿論ノ褒貶毀譽スル所ハ以テ人ノ行為ヲ抑揚スルノ勢力アリ而シテ其勢力ヲ増ス所為ノ尤モ重且大ナル者ハ出版ノ自由ヲ與フル一國人ニ干係アル諸種ノ公務ヲ秘セサル一民刑二事裁判ノ傍聽ヲ許ス一出納ノ精算ヲ公布スル一廟議ノ格段ナル理由アリテ秘密スヘキヲ要スル者ノ外ハ悉ク之ヲ公布スル等ナリ文明ナル公衆ハ即チ法律ノ倉庫榮譽ノ泉源ニ

レテ何等ノ事項何等ノ所為ト雖氏之カ裁決ヲ
 受ケ之カ褒貶ヲ被ムデサルハ無シ上ニ陳ル諸
 事ヲ公布スルニ依テ公衆ハ其證左ヲ收拾スル
 ヲ得而シテ其臧否ヲ判斷シ出版ノ自由ニ依
 テ其斷案ヲ公布スルヲ得ルナリ
 輿論ノ勢カヲシテ重カラシムルノ術多シ輿論
 ノ以テ耻辱トスル者ヲ以テ刑トシ輿論ノ榮譽
 トスル所ヲ以テ賞トスル等是ナリ
 世人ニ識ラシメスシテ輿論ヲ開導スルノ術ア
 リ即チ一事ヲ豫防セント欲スルハ先ツ他ニ

輿論ノ貶斥スル事ヲ為スノ後ニ非レハ此事ヲ
 為ス能ハサルカ如キ措置ヲ為スニ在リ例ハハ
 賦稅ヲ徵セントスルハ之ヲ納ル可キ人ヲシ
 テ先ツ稅ヲ納ル、ノ誓ヲ為サシメ而後チ若シ
 其稅ヲ納レサルハ則チ誓約ニ背ク者ナリ誓
 約ヲ破ルハ輿論ノ非斥スル所為ナリ故ニ稅ヲ
 納レサル所行ヲ非トシテ犯罪トス
 又唯其名稱ヲ易ユルノミニニシテ輿論ノ方嚮ヲ
 轉換シ得ルヲアリ羅馬人ハ王號ヲ憎ムト雖氏
 却テ總管宰官ノ名稱ニハ服従セリクロムウエ

ルハ英王ノ位ニ即クテ能ハサリシト雖保監氏保監
 ノ名稱ヲ以テ其威權ヲ逞フセシトハ却テ王ヨ
 リモ甚シ魯西亞ノ彼得帝ハ自ラ專主ノ名ヲ去
 リ諸侯ノ奴隸ヲ爾來ハ臣民ト稱スヘキヲ令セ
 リ若シ國民皆理學者ノ思想アラシニハ斯術モ
 亦施スヘキノ地無カラシ然リト雖氏此事ニ就
 テハ理學者ト雖氏亦多クハ公衆ノ思想ト殊ナ
 ルト無ク自由ノ權同等ノ權ト唱フレハ則チ喜
 テ之ヲ欽仰シ却テ其束縛スル所ト為ルヲ知ラ
 ス驕奢ト云ヘハ皆舉テ之ヲ憎ニ國民ノ榮華ト

云ヘハ人ニナ之ヲ賞歎ス而シテ一般ノ榮華ハ
 即チ一般ノ驕奢ナルノ理ヲ察セス
 立法家ハ真論ノ利論ニ反スル者アルハ之ヲ
 シテ強カラシムルノ措置ヲ為サ、ルトニ着意
 スヘシ即チ幻術妖法等ヲ罪犯ト為ス律法ノ如
 キ是ナリ既ニ公衆ノ迷眩スル所ニシテ而シテ
 之ヲ法律ニ載スルハ益其勢力ヲ增長ス假令
 公衆ノ惑ヒヲ除ク能ハサルモ之ヲ助ケテ長セ
 シムヘキ措置ハ決シテ為スカラサル所ナリ
 榮譽ヲ好ムノ心ヲ借テ法律ヲ施行スルノ助ケ

ヲ為サレムルコトハ太夕難シ犯罪者アルモ密カ
 ニ之ヲ官ニ告訴スル者ニ賞ヲ與フルノ法ハ既
 ニ其目的ヲ達スルコト能ハス何トナレハ人ハ廉
 耻ノ心アリテ其貪心ト抵抗シ且ツ公衆ノ卑劣
 ナリト認ムル所行ニ對シテ賞ヲ與フルカ故ニ
 法律ハ翻テ其力ヲ弱クス從テ真ニ法律ノ施行
 セラル、コトヲ助ケント欲スル人モ或ハ貪心ノ
 為ニスルノ疑ヲ被ムルヲ恐レ之ヲ知見スルア
 ルモ官ニ告訴スルヲ憚カル

輿論ヲ變革センニハ之ニ示スニ大ナル例格ヲ

以テシテ公衆ノ耳目ヲ驚カスヨリ速ニシテ善
 キハ無シ視ヨ彼得大帝ハ自ラ兵卒ニ伍シテ規
 律節制ニ從ヒ漸々ニ昇級シ以テ規律ヲ遵奉ス
 ルノ道ヲ教ヘカセリシ第二世ハ種痘ヲ其身ニ
 施シテ國人ノ頑陋心ヲ除去セリ上ノ為ス所下
 自ラ之ニ倣フハ人情ノ自ラ然ル者カ

第十八章

宗教信仰ノ心ヲ使用ス

宗教ヲ奉セシムルニ二個ノ趣旨アリ一ニハ其
 勢力ヲ増シニハ其勢力ヲ用ユルノ方向ヲメ

宜キヲ得セシム若シ其勢力ヲ用ユルノ方向ニ於テ不可ナル者アルトキハ其勢力甚タ弱小ナル者ハ其害ヲ為スヲ亦愈少キハ言ハスレテ明カナリ故ニ宗教ノ事ニ就テ根本主要トスル所ハ其方向如何ヲ察スルニ在リ而シテ其勢力ヲ増スノ方法ヲ講スルカ如キハ抑モ未ナリ宗教ノ勢力ノ方向ハ最モ利論ノ主義ニ適當スルヲ要トス其勢力トハ即チ宗教中ニ有スル所ノ褒貶賞罰ノ權カヲ云フ然レハ則チ宗教ノ之ヲ貶斥スル所ハ世ニ害アル所為ノ三ニ局テ其

罰ヲ被ラシメ其褒讚スル所モ亦世ニ利アル者ノ三ニ限ルヲ要ス此事ハ須ク教導的ノ本源ノ規箴ト為スヘシ其勢力ノ方向可否如何ヲ察スルニハ其宗教ノ所説ノ世ニ利益ヲ與フルカ將タ弊害ヲ為スカヲ見テ之ヲ判別スルニ外ナラス其他ハ可モ無ク不可モ無キ者ナルノ三然リト雖モ宗論中可モ無ク不可モ無キ者ノ動モスレハ弊害ヲ生スルコトアルカ故ニ又心ヲ茲ニ注ク可シ立法者カ一ノ宗教ヲ流布セント欲シ罰ヲ設ケ

強テ人ヲシテ之ヲ崇信セシメントスルハ忽チ弊害ヲ生スル者ナリ凡ソ其宗教ヲ崇信セシメントスル人ノ種類ハ之ヲ分テ三トス其一ハ既ニ立法者ト同宗ヲ信スル者其二ハ全ク其宗教ト乖戾スル者其三ハ敢テ之ヲ信セス又敢テ之ヲ拒絶セサル者ト是ナリ

既ニ其宗教ヲ信スル人ハ固ヨリ之ヲ強ユルヲ要セス其宗教ヲ信セサル人ニハ強迫スル到底益無キナリ故ニ一回自家ノ意見定マレル後ハ刑罰ノ能ク之ヲ變更スハキニ非ス若シ之

ヲ罰スルハ却テ反對ノ結果ヲ生ス其故ハ之ニ迫ルニカヲ以テスルハ理ニ於テ及ハサル所アルノ證ナレハナリ又暴横ノカヲ以テ維持スル所ノ宗教ハ人自カラ之ヲ厭忌スレハナリ刑罰ハ唯人ヲシテ其宗教ヲ崇信スルノ詐偽ヲ行ハシムルノミニシテ決シテ真ニ崇信ノ心ヲ起サシムル者ニ非ス

其中ニ於テ蓋惡ノ心アル者ハ己レノ信セサルヲモ之ヲ信スルノ狀ヲ假裝スルヲ耻チテ刑罰ヲ甘受ス然ルハ人ヲ罰シテ之カ為ニ寸毫

モ利益ヲ生スルヲナキ所ノ刑ナリ至竟官吏ノ
手ヲ假リテ為スト惡人ノ手ニ由テ為ストノ差
アルノミニシテ其害タル通常ノ惡人ノ為ス所
ニ比スレハ更ニ大ナリトス
稍怯懦ナル人ハ假裝以テ刑罰ヲ遁ルト雖中
心自ラ安ンセス且ツ世人モ亦其怯懦卑屈ナル
ヲ賤ムカ故ニ一時ノ刑ヲ遁レテ翻テ自ラ尤メ
人ニ尤メラルノ苦想ヲ感ス
如此情勢ノ趣ク所ヲ考フルニ世人ノ一班ハ平
和ヲ保ツカ為ニ他ノ一班ノ意見ヲ不問ニ措キ

有害ノ詐偽ト無害ノ詐偽ト詐偽ヲ分テ二類ト
レ一ハ虐政ヲ防ク為ニ要スルノ詐偽トシテ之
ヲ尤メス詐偽ノ摺文モ人之ヲ許レ詐偽ノ印章
モ敢テ之ヲ尤メス方正誠實ヲ尊フノ風漸ク地
ヲ掃ヒ遂ニ有害無害ノ區域混亂シ無害ノ詐偽
ノ名ヲ冒レテ有害ノ詐偽ヲ行ヒ世人ノ思想動
搖レテ定マラス法官ト雖モ亦害ノ有無ヲ區別
スルノ程度ヲ定ムルニ惑トヒ其法ヲ施行スル
ニ方テ前後同轍ニ出ルヲ能ハス名教亡ヒテ風
俗壞ル如此法ヲ制スル人ハ實ニ一國ヲ破滅ス

ル人ト謂フヘシ是宗教ノ為ニ道德ヲ棄ル者タ
 リ宗教ハ苟モ道德ノ助ケヲ為スニ非サレハ有
 害ノ者タリト云ノ理ニ通セサル人ナリ
 上ニ謂フ所ノ第三類ノ人即チ敢テ信セス敢
 テ拒絶セサル人
 法律ノ設置アル時ニ方テ未タ彼此ヲ簡擇セサ
 ル人ナリ此等ノ人ハ其法律ノ為ニ始テ其崇信
 スル所ヲ定ム一方ニハ危害アリ一方ニハ安堵
 ノ道アルカ故ニ自然ニ怖畏ノ心思ヲ以テ法律
 ノ禁遏セル宗教ヲ探リ安堵ノ念慮ヲ以テ法律
 ノ命令セル宗教ヲ探ム故ニ自ラ安堵ノ方嚮ニ

傾キ遂ニ法律ノ令スル所ヲ崇信スルカ或ハ然
 ラサルモ敢テ之ニ背戾スルニ至ラス如此際ニ
 於テハ前條ノ如キ大害アルヘカラスト雖モ害
 ハ則チ害タルヲ免カレヌ假令之ヲ崇信スル
 ノ念ヲ生スト雖モ強迫セラレタルノ念アル以
 上ハ自ラ其心ニ於テ安ンセサル所アリ今日信
 スル所ハ明日其信仰心ヲ失ハントスルノ疑念
 アリ中心ヨリ信仰スル道德的ノ教ハ如何ナル
 時ニ菘△氏其信移ラスト雖モ宗教ノ信心ハ自己
 ノ中心ニ於テ多少動揺スルモノナリ故ニ恒ニ

人ノ之レヲ襲撃シ論駁スルヲ懼レテ止マヌ
基礎ノ固カラサル家屋ハ改築ニ堪ヘス立論ノ
趣旨確乎タラサル者ハ他ノ論評ヲ懼ル故ニ智
識ハ漸ク晦冥シ妄信愚奉自ラ其心ニ安ンスル
ヲ求メ己レノ信スル所ト類似スル者ハ虚誕ト
雖モ採テ之ヲ并信シ事ノ真假ヲ辨了スルヲ懼
レテ其分界ヲ區別スルヲ好マス何等ノ事ニ
限ラス人ノ智識ノ依憑ス可カラサルヲ證ス
ルノ說アレハ喜ンテ之ニ服従シ自ラ信スル所
ヲ是トシ而シテ之カ證左ヲ求メス一方ノ言ノ

ミヲ聞テ人ノ理性ヲ以テ思惟スルトニ從ハサ
ルニ至ル緊シテ之ヲ言ヘハ日光ノ眼ヲ傷ラシ
トヲ懼レテ常ニ目ヲ閉テ繙帶ヲ施スニ同シ
如是者ナルカ故ニ宗門ノ威カヲ増サンカ為ニ
用ユル所ノ刑罰ハ道德ノ樞要ナル誠實ヲ貴ヒ
公論ヲ敬スルノ教ヲ壞敗スルノ勢アル者ナリ
今世ニ在ル有識者ハ此等ノ道理ヲ辨知セサル
者無シト雖モ之ヲ實際ニ施用スル國ハ太々稀
ナリ異教ノ人ヲ待ツニ慘酷ノ刑ヲ以テスルノ
風ハ漸ク衰ヘタリト雖モ猶ホ稍寛トスル所ノ

罰ヲ存スル者アリ或ハ異教ヲ奉スル者ハ官ニ就クコトヲ得ス議員ノ選舉人タルコトヲ得サル等是ナリ而シテ未タ全ク慘刑酷罰ヲ施スノ法ヲ除去ヤルニ非ス其刑罰ニ逢ハサル者ハ彼寛假スルニ由ル者ニシテ我其罰ヲ受ケサルノ權アルニ非ルナリ是豈國民タル者ノ心ニ慊ヒトス可キ者ナランヤ

宗教ノ勢力ヲ擴張スルニ由テ得ル所ノ利益ヲ知ラント欲セハ左ノ三個ノ情態ヲ熟考ス可シ

第一宗教ヲ左右スルノ權全ク立法者ノ掌裡ニ

在ル者第二他人ト立法者ト此權ヲ分掌スル者第三此權全ク外國人ノ掌握ニ在ル者此第二第三ノ情態ニ於テハ一國ニ二人ノ君主アルニ殊ナラス立法家ハ宗門ノ勢力ノ愈増スニ從テ己レカ權威愈減殺スルノ患アリ此政教二人ノ手ニ出ルヨリシテ擾亂ヲ醸セルノ例ハ歷世ノ史冊ニ照シテ昭然タリ為政者ノ命スル所教主之ヲ禁シ人民ハ彼ニ從フハ此ノ刑ヲ被△リ此ヲ奉スルハ彼ノ罰ヲ受ク即チ刑場ト地獄ノ間ニ躊躇スルノ情態ナリ

耶蕪新教ヲ奉スルノ國ニ在テハ僧侶ハ必ス政
 權ノ管轄スル所トナル如此ナレハ固ヨリ宗教
 ノ旨趣ハ為政者ノ手ニ成ル者ニハ非スト雖
 其旨趣ヲ解明スル人ハ則チ為政者ノ左右スル
 所トナル教旨ヲ講明スルノ權ハ教ヲ布クノ權
 ト異ナル者無シ故ニ此等ノ國ニ於テハ宗教ハ
 容易ニ為政者ノ意ニ應スルヲ得且ツ妻ヲ蓄
 フル僧侶ハ俗人ニ接近シ強大ナル勢力ヲ得ヘ
 キノ教黨ヲ為スト無シ又懺悔コンシエトヨクシテカクシテシヨク減罪ノ功德ヲ與
 フルノ威カヲ有セス

然リト雖ニ若シ歴史ニ徴シテ事實ノミヲ求ム
 レハ耶蕪教ヲ奉スル國ハ其新舊プロテスタントカトリックヲ問ハス宗教
 ノ大ニ人類ノ不幸ヲ來タセシト多シ其政府ノ
 輔翼タリシニ比スレハ政府ノ怨讎タリシト多
 シ道德教ノ威カハ世ノ公利ニ適ヘル者ニ非レ
 ハ其勢力薄シト雖ニ宗教ハ全ク公利ニ乖背セ
 ル事ニ於テ最モ強大ナル勢力ヲ有シ政治上ノ
 助ケヲ為スニ宗教ノ力薄キトハ其効用ノ大ナ
 ラシトヲ希望スル人ノ常ニ講論スル所ナリ宗
 教ハ政治上ノ善ヲ生スルニ充分ノ勢力アリ而

シテ之カ害ヲ為スノカハ恒ニ多キニ過キタリ
 コドロスコドロスハ零六十八年雅典ノ王ナリ紀元前一千
 コドロスコドロスハ零六十八年雅典ノ王ナリ紀元前一千
 臨ムテ其勝敗ヲ神籤ニ問フ籤ニ曰ク王ノ先
 ツ殺サレタル國人ハ勝ヲ得可シト茲ニ於テ
 コドロスハ農夫ノ衣ヲ被テ敵營ニ入り敵
 兵ト爭論ヲ起メ終ニ敵兵ノ手ニ死セリ敵
 エロスエロスハ軍ヲ敗ルト雖正終ニメ屢カルテ
 橋セラルル後チカスルテ正終ニメ屢カルテ
 フニ方リレグエロスヲ許メ其使ト共ニ和ヲ請
 選ラシムレグエロスヲ許メ其使ト共ニ和ヲ請
 マシムレグエロスヲ許メ其使ト共ニ和ヲ請
 ロスロスハ以テ多ク針ヲ別植セル中口ツセルス
 ニ入レ其桶ヲ顛轉シ遠ニ之ヲ殺ス如キノ義
 及ヒシド子及ヒシド子ハ共ニ期人ナリ其傳ノ如キノ義
 氣ヲ鼓舞シタルハ道德ノ教ノ然ラシムル所ナ

リフイリツプ第二世カ和蘭ニ於テ虐政ヲ恣ニ
 シメレ一女王カ英國ニ於テ暴酷ヲ施レ查爾斯
 九世カ佛國ノ良民ヲ屠レルハ皆是宗教ノ然ラ
 シムル所也
 去レハ宗教ノ害多クシテ益寡キノ誅ヲ辨明ス
 ル為ニ通常人ノ唱フル所ノ論ハ宗教ニハ害ア
 ルヲ無ク其害アリトスル所以ハ全ク之ヲ妄信
 シテ惑溺スルニ在リト云ナリ然ルニ此區別ハ
 唯言語上ノ區別ニシテ之ヲ信仰ト云ヒ之ヲ惑
 溺ト云名ハ則チ異ナリト雖正其實ハ則チ同物

ニシテ人心ヲ感動シテ作用ヲ致サシムル所以ノ物ハ彼此殊ナルト無シ是畢竟無量ノ力ヲ備ヘ無量ノ智ヲ有セル神ニ對シテ惡アラシトヲ懼レ善アラシトヲ望ムノ心ニ外ナラサルヲ以テナリ故ニ人ノ行為ヲ論スルニ方テ一人ハ之ヲ感溺ト云ヒ一人ハ之ヲ信仰上ノ所為ト云フニ過キス其名ニシテ其實ハ一ナリ或ハ曰ク物ノ利用ト弊用トハ之ヲ混同ス可カラス最良ノ器ト雖モ其用ヲ誤レハ害ヲナスト夫此論ノ理ニ契ハサルトハ一目ニシテ瞭然ク

リ何トナレハ是唯其器物ヲ用ヒテ利アルトハ之ヲ用ト云ヒ害ヲ生シタルトハ之ヲ弊ト云フニ過キス物ノ弊ノミヲ見テ其物ノ美惡ヲ決スルト勿レト云者ハ物用ノ原因ヲ研究スルニハ其利用ノミヲ見テ其弊害ヲ生スルトニ注目スヘカラスト云カ如シ益ヲ為スノ器ト雖モ其用法ヲ誤レハ則チ害ヲ為ストアルハ我固ヨリ之ヲ知ル然リト雖モ最モ益アルノ器ハ其用法ヲ誤ルト能ハサルヲ以テ完全ナル者トス最モ効能アル良藥モ其分量ニ從テ毒藥トナルトモ我

固ヨリ之ヲ知ル然リト雖氏之等ハ害ヲ生スル
 一無クシテ効益アル者ヨリ善ナラサルナリ水
 銀阿片ハ要用ノ物ナリト雖氏未タ穀物ト水ノ
 良質ニシテ且ツ要用ナルニハ如カサルナリ
 上來陳述スル所ハ敢テ忌諱ヲ避ケス自由ノ思
 想ヲ吐露セル者ナリ其宗教ノ必要ナル事ノ如
 キハ他ニ詳述スル所アリ且ツ宗教ハ漸々ニ頑
 固ナル有害ノ教旨ヲ棄テ、道德ト政治トニ合
 同スルノ色アリ之ニ反シテ今日ニ在テ無宗旨
 ナル人ハ狂虐無道ニシテ最モ厭忌ス可キ情態

ヲ現ス之ニ由テ此ヲ觀レハ世ノ安全ヲ計ルノ
 人ハ宜ク宗教ノ勢力ヲ助ケ之ヲ導ヒテ改良ノ
 途ニ就カシメ其力ヲ假ルテ務ムヘシ然リト
 雖氏為政者カ宗教ノ勢力ヲ助ケ長スルニ過キ
 之ヲシテ一回其限界ヲ踰エシメハ全ク其効用
 ヲ失フニ至ルヘシ往昔ヨリ漸々ニ宗教ノ弊ヲ
 更革セシハ自由ナル研究討論物ヲ研究スル事
 ノ自由ノ力ニ由レリ然レハ則チ此自由ハ猶益
 宗教ヲシテ清淨ナラシメ公利ト合同セシムル
 ニ至ルヘシ

宗教ノ用タルヤ廣シ人ノ不幸ヲ慰メ下民ニ適
 當ノ道德ヲ誨エ仁愛ノ心ヲ開誘シ榮利ヲ以テ
 モ誘フヲ能ハサルノ德行ヲ為サシム其用ノ多
 キヲ枚擧ス可カラサルナリ
 今ノ法律ヲ作ルニ宗教ハ誓約ノ力ヲ増シ之ヲ
 用ヒテ信ヲ堅フス然リト雖モ誓文ヲシテカア
 ラシムル所以ノ者ニアリ一ハ宗教ニ乖クヲ恐
 レ一ハ誓ニ背クノ毀リヲ懼レテ之ヲ守ル者ナ
 リ破誓ノ毀リヲ恐ルハ世人ノ信實無キ者ト
 看做ス所ト為ルヲ恐ルナリ宗教ニ基クノ誓

ハ宗教ヲ信仰スル者ニ非レハ其効力無ク信實
 ヲ守ルニ基クノ誓ハ人トシテ之ヲ守ラサルヲ
 得ス人アリ誓文ヲ破ル中ハ帝ニ宗教ノ罰ヲ被
 ムルノミナラス法律ノ督責ヲ受ケ輿論ノ毀譽
 ヲ免カレス去レハ誓文ノ効力多キ所以ノ者ハ
 神罰ヲ恐ルニ由ルトハ必クシテ世ノ厭忌ス
 ル所ト為ルヲ懼ルニ出ル者多シ故ニ單ニ道
 徳上ノ思考ヲ棄テ、專ラ神罰ノ力ヲ恃ムテ誓
 文ヲ恪守セシメント欲スルハ愚ナルニ庶幾シ
 誓文ヲ破レルヲ以テ輿論ノ厭忌スル所トナル

可キ事項ニ於テハ誓文ノ効力亦大トリ若シ輿
 論カ其之ヲ守ルト否サルトノ如何ヲ顧ミス敢
 テ干係セサル事項ニ於テハ誓文ニカ必ナリト
 ス税關ニ於テ為スノ誓文諸學校ノ誓文ノ如キ
 即チ是例ナリ

為政者ハ猶ホ兵ニ將タル者ノ如シ須ク其將エ
 ル所ノ公衆ノ情態ヲ察知スヘシ弱所ヲ看ルノ
 快ラサルヲ嫌テ之ヲ見サルヲ欲スルハ怯懦
 ナリ宗教ニ基ク誓文ノ力弱キハ之ヲ恃ムニ過
 キタルノ失ナリ其之ヲ用ユルヲ多キニ過クル

カ故ニ其固有セル僅少ノ勢力ヲモ并セテ之ヲ
 失墜スルニ至レリ

宗教ノ力ニ倚頼スル所ノ誓文ハ其力弱カラサ
 ルヲ得ス何トナレハ人ノ識見ハ日ニ變更スル
 者ニシテ今日ノ信仰スル所ハ明年ノ信仰スル
 所ト同シカル可キヲ保スルヲ能ハス故ニ今日
 ノ信仰スル所ニ由テ誓文ヲ為スモ將來ヲ束縛
 スルノ力無シ故ニ放恣ナル人ハ之ヲ借テ利ヲ
 計リ良心アルノ人ハ之カ為ニ損失ヲ被ムルヲ
 アルヘシ

誓文ハ見戯ノ如キトニ之ヲ用ヒ或ハ衆人ノ破
ルトヲモカス屑ヒセサル事ニ施スキハ其力削弱シ仁
義ト公道ニ由テハ之ヲ破ルトヲ可トスルトニ
使用スルキハ全ク其効ヲ失フ
神ノ名ヲ假テ誓ヲ為サシメ之ヲ破ル者ヲシテ
神罰ヲ蒙ムラシメントヲ望ム者ハ是人法ヲ設
ケ而シテ神ヲシテ判官タラシムルカ如シ衆庶
ノ心ニ於テ固ヨリ神ハ人ノ設ケタル非義不正
ナル法律ヲ施行スルトヲ信セス此ノ如クナル
ニ至レハ宗教ニ基クノ誓文ノカハ全ク亡滅ニ

歸ス

英國人ハ固ヨリ信教ノ念厚ク遠キ慮アリ然ル
ニ持リ誓文ヲ施用スルノ法ハ宜キヲ得サルニ
由テ其勢力全ク亡滅セシハ復タ惟ムニ足ルモ
ノトスケーム侯ノ教育論ヲ引テ此事ヲ證明セ
ン曰ク税關ノ誓文ハ今日何ノ用ヲモ為サス是
世人カ漸々ニ道德心ヲ失ヒシカ故カ曰ク否ラ
ス唯誰人ニテモ誓文ノ守否ヲ以テ緊要ナルト
ト為サハルニ由レリ佛國ノ葡萄酒ニ課スル所
ノ税ハ西班牙ノ葡萄酒ニ課スル税ヨリモ貴シ

然ルニ其重キ税ヲ納ル、一能ハス又之ヲ強ユ
 レハ收税額ノ減少スルカ故ニ現ニ税關ニ於テ
 ハ實際佛西二國ノ酒ニ同様ノ税ヲ課ス唯佛酒
 ヲ輸入スルノ商估ハ佛酒ニ非スレテ西酒ナリ
 ト云ヘル誓ヲ為シ而レテ後チ税ヲ納ル、ナリ
 是天下ノ人ヲ欺クノ大罪ナリト雖モ其誓ヲ立
 ル者モ亦之ヲ納ル、人モ其真偽ハ問フマテモ
 無ク恰モ書牘ノ結尾ニ恐惶頓首ト書スルト同
 様ノ心ヲ以テ之ヲ為ス者ニシテ單ニ禮式ノ為
 ニスル者トハナレリ此偽誓ヲ為スノ商估ハ之

ヲ以テ口ヲ糊スルト雖モ亦之カ為二人ノ信ヲ
 失フヲ無シ

ケルム侯ハ道德者ニシテ判官ノ職ニ在リ其言
 フ所如此クウエケル宗ノ人ハ唯言語上ノ然諾
 モ猶ホ誓文ナリトシテ之ヲ守ル官吏ハ儀式ノ
 為トシテ誓文ヲ採ルハ果シテ何ノ為ゾヤ其儀
 式ヲ為スハ果シテ何ノ益アリヤ宗教ハ如此賤
 シム可キ者ナルカ若シ宗教ハ如此賤ム可キ者
 トスルモハ何ノ為ニ莫大ナル費用ヲ愛マヌシ
 テ僧侶ヲ養フヤ假令僧侶ヲシテ教壇ニ立テ誓

文ノ固守スヘキヲ演述セシムルハ官吏ヲノ
其誓文ヲ玩具ト為サシムルハ亦何ノ妙用ア
ルヤ

第十九章

諭示ノカヲ施シテ罪犯ヲ豫防ス

諭示ノ法タル一個殊別ノ諭ヲ要スル者ニ非ス
ト雖モ今更ニ一章ヲ設ケテ此ヲ説明スル所以
ノ者ハ各種區々ノ事項ヲ概括シテ茲ニ論述セ
シカ為ノナリ

何等ノ事ヲ問ハス政府ハ唯其威力ノミヲ恃ム

テ施行スヘキ者ニ非ス威力ニ從フ者ハ僅ニ其
身體ノミニ止マル知慮ニ非レハ決シテ其精神
ヲシテ服從セシムルヲ能ハス政府ノ命令ヲ下
スルハ其臣民タル者ハ強チ之ニ從フヲ以テ
其身ノ利ト為スカ故ニ之レニ從ヒ嘗テ心服ス
ル者ニ非ルナリ諭示以テ人民ヲシテ事ヲ曉悟
セシムルハ中心ヨリ悦服シテ民自ラ之ニ化
セサルヲ得ス諭示ノ最良ナル者ハ事ノ實ヲ公
布スル者ナリ然リト雖モ時トシテハ人民ヲ助
ケテ其事實ノ利弊得喪ヲ判別スルノ方ヲ誨ユ

ルヲ可トス
政府ニ於テ一ノ善良ナル方法ヲ設置シ之ヲ施行スルニ莅ムテ無智ナル人民カ之ニ抗抵スルカ為ニ其法行ハレサルヲ看ルホハ我輩ハ人民ノ愚魯ナルニ憫レ果テ、瞋怒ノ心ヲ發シ復タ公益ヲ計ルノ望ミ殆ト斷絶スルニ至ルヲアリ然リト雖此抵抗アラントハ豫メ知リ易キ所ニシテ而シテ政府ハ其威權ヲ揮擢スルニ慣レ嘗テ人民ノ頑固心ヲ除去スルトニ着意セス先ツ人民ノ心ヲ調熟スルトヲ試ミス人民ノ信ヲ

得ルヲ計ラズ直チニ此法ヲ施行セルト為セシトヲ熟思セハ我輩カ無智無慮ナル人民ノ之ニ抗抵セシトヲ愠ルノ心ハ自ラ氷消シテ唯政府ノ措置ノ深切ナラキリシトヲ憤ルノ外ハアル可カラズ
曾テ經驗シ来レル所ニ由レハ世人ノ思フ所トハ相反シテ新聞紙ハ公衆ノ思想ヲ導キ其騷擾ノ心ヲ鎮靜シ政府ニ敵セントスル徒ノ已レカ惡計ヲ遂ケンカ為ニ流傳セル浮説ヲ解散セシムル為ニハ最良ノ物タルヲ證スルニ足レリ

新聞紙ノ媒ニ由レハ政府ノ諭示ハ人民ニ下達
シ人民ノ情ハ政府ニ通ス出版ノ自由愈熾ナル
中ハ民情ヲ察スルト愈容易ナルヲ以テ愈其事
ヲ措置スルニ方テ正鵠ヲ失フノ虞鮮矣
新聞紙ノ利便ヲ知ラント欲セハ未タ新聞紙ヲ
ラサリシ時代ヲ想像スヘシ人民ノ文字ヲ知ラ
サリシ世ニ方テハ冒名欺世者ノ宗教上或ハ政
治上ニ姦謀ヲ施シ其惡事ヲ成就セシ者枚擧ス
ルニ違アラス自ラ王族ナリト唱ヘテ事ヲ謀リ
タル最後ノ冒名人ハピエーガツチエフナリ今

日ノ英佛ニ於テ彼カ如キ謀ヲ施サント欲スル
モ豈得ヘケンヤ凡ソ犯罪ノ種類中開明ノ國人
ト雖モ為スト能ハサル者アルハ其巧詐ノ發覺
シ易キヲ以テナリ
政府ノ諭示ヲ下スニ由テ人民カマサニ陷阱ニ
陥ラントスルヲ救ヒ得ヘキト固ヨリ鮮カラス
商估ニ工藝ニ貨物ノ品位價格ニ其騙詐アルト
ヲ以テ人民ニ曉悟セシムル中ハ皆之ヲ制止シ
得ヘキ者タリ賣藥者カ奇方妙劑ト稱シテ販賣
スル所ノ藥ニ於テ危害ヲ生スヘキ者アリ真ニ

有害ナル者アリ如此事ハ政府ヨリ其成分ヲ公
 布スレハ如何ナル偏信者ト雖亦迷フ者アル可
 ラス有害ナル論說頑鈍ナル誤説モ政府ニテ人
 民ニ曉知セシムルト明カナレハ汎濫スルノ暇
 アラザル可シ嘗テ人體越歷氣ヲ以テ奇術ヲ施
 ストヲ唱ヘシメスメルト云者アリ佛都巴黎斯
 ニ於テ衆人ヲ哄騙シテ其說漸ク歐羅巴各所ニ
 傳播セントスル時アカカニシオノサイエンス學術公費ノ報告書中正理ヲ
 以テ其虚誕ヲ論駁シメスメルヲ以テ口角ヲ賣
 ル者ト為セシヨリ昨之ヲ信仰セル人モ今ハ三

ナ其門ヲ去リ其迷ヒ深クシテ醒覺シ難キノ徒
 弟ノ僅カニ止リシノミニテ翻テソスメルカ醜
 狀ヲ増スノ助ケトナレリ無智頑固ニシテ迷ヒ
 易キ人民ヲ警醒スルニハ國ノ各地方ニ派出ス
 ルニテツマ手技師等ヲ以テシ始メニ奇怪不測ノ所為
 ヲ視セシメ後キニ其理由ヲ解説セシム可シ能
 ク天然奇異ナル物ノ理由ヲ知ル者ハ所謂幻術
 者ノ口角ニ迷フヲ蓋シ以英吾輩ハ切ニ望ム聖
 徒ジニアニユアリユスノ神迹ヲ子ノブルスノ各
 所ニ於テ公然衆人ノ目前ニ於テ之ヲ執行シ或

ハ見童ノ玩弄物ト為サンヲセント、シ、ア、ニ、ユ
 三百年代ノ人耶蘇宗ノ僧ニアリ、ユ、ス、ハ、紀、元
 死セリ其頭骨及ヒニ瓶ニ納シタル血ハ其頭トメ、ニ
 ルスノ寺院ニ蔵シ國家ニ事アルキハ其頭ト血ノ
 ヲ盛リタル瓶トヲ一處ニ置キテ其災害ノ大小
 シテ流動セサルハ將サニ其災大ナリト凝、結
 ルノ骸ト為ス此ハ僧侶自ラ之ヲ執行、シ、血、液、流、動、シ、テ、後、チ、之、ヲ、衆、ニ、示、ス
 政府カ人民ニ曉知セシムヘキ者ノ中主ナル者ハ、法、律、ヲ、誨、ユ、ル、ニ、在、リ、人、民、ヲ、シ、テ、法、律、ヲ、知、ラ
 ハ法律ヲ誨ユルニ在リ人民ヲシテ法律ヲ知ラサ、ラ、シ、メ、ハ、之、ヲ、遵、奉、セ、シ、ム、ル、ヲ、能、ハ、ス、而、シ、テ
 サラシメハ之ヲ遵奉セシムルヲ能ハス而シテ之、ヲ、シ、テ、法、律、ヲ、知、ラ、シ、ム、ル、ニ、ハ、簡、易、ニ、之、ヲ、記
 載シ以テ各自ニ讀知セシメスメ可ナラニヤ

立法家ハ政治上ノ訓戒ヲ輯集シ之ヲ公然刊布ス、ル、ニ、由、テ、世、ノ、思、想、ヲ、動、カ、ス、ヲ、得、可、シ、最、モ
 スルニ由テ世ノ思想ヲ動カスヲ得可シ最モ其、中、ニ、古、事、雜、話、ヲ、挿、ム、テ、例、證、ト、為、サ、ハ、老、少、共
 其中ニ古事雜話ヲ挿ムテ例證ト為サハ老少共ニ、之、ヲ、讀、ム、ヲ、樂、ム、ノ、書、ト、為、ス、ヲ、得、可、シ、且、ツ、世
 ニ之ヲ讀ムヲ樂ムノ書ト為スヲ得可シ且ツ世人、ノ、迷、ヒ、易、キ、所、ノ、事、ヲ、掲、ケ、テ、其、迷、ヲ、可、カ、ラ、サ
 人ノ迷ヒ易キ所ノ事ヲ掲ケテ其迷ヲ可カラサル、所、以、テ、記、ス、ル、モ、可、ナ、リ
 ル所以ヲ記スルモ可ナリ魯、帝、カ、セ、リ、ン、二、世、ノ、教、諭、書、也、者、ハ、古、來、帝、王、ノ
 魯帝カセリン二世ノ教諭書也者ハ古來帝王ノ威、風、ヲ、人、ニ、示、セ、ル、者、ノ、中、ニ、就、テ、未、曾、有、ノ、例、ト
 威風ヲ人ニ示セル者ノ中ニ就テ未曾有ノ例トス、當、時、帝、カ、好、名、喜、功、ノ、事、多、ク、亦、闕、典、無、キ、ニ、非
 ス當時帝カ好名喜功ノ事多ク亦闕典無キニ非スト、雖、氏、今、ハ、督、ク、之、ヲ、措、キ、上、ニ、云、フ、例、ノ、三、ヲ
 スト雖氏今ハ督ク之ヲ措キ上ニ云フ例ノ三ヲ

以テ考フレハ實ニ驚嘆スルニ堪タル者ト為サ
サルヲ得ス女子ニシテ帝位ニ即キ未ク文化洽
子カラサルノ民庶ニ君臨シテ之ニ示スニ哲學
ノ訓言ヲ撰集セル書ヲ以テシテ之ヲ教諭シ加
之親カラ之ヲ宣命スル所トシテ其虛文ニ誇ル
ヲ為サス直チニ當時有名ナル賢者ノ言ヲ取
リタル者ニシテ朕カ之ヲ制可スル者ナリト明
言セリ是ヲ譬フルニ民庶ニ詔シテ朕ハ一時ノ
賢者ト計テ政ヲ為ス朕若シ過失アラハ是等有
道ノ君子ヲシテ其過失ヲ公ケニシ隱蔽スル

勿カラシム汝衆庶宜ク信テ朕ニ措ケト云ニ殊
ナラス故ニ帝カ其朝臣ヲ區別シテ立法ニ干カ
ラレメシモ亦同意ニ出ルモノタリ帝ハ羅馬帝
タイベリユスカ其元老ノ諂諛ナル唯命惟從ノ
カ如キヲ厭忌スト雖モ又其命ニ背ク者ヲ怒カ
レルカ如キ前後矛盾ノ行為無キニシテモ非サレ
氏全國人民ニ對シテ誓言シタル者ハ帝親カラ
其威權ノ制限ヲ設ケタルニ等ク而シテ其終身
亦敢テ此レト相撞着スルカ如キノ跡アラサリ
シナリ

3010
39

37238

刑法論綱卷之八終



刑法論綱
卷之八
終

